

ゆめ わらわ 夢 童

菅波 茂

2012年11月3日から2日間。第27回日本国際保健医療学会学術大会が岡山大学50周年記念会館をメイン会場に開催された。「国内大災害時に海外からの医療チーム受け入れ体制の構築」をテーマにシンポジウムをおこなった。私が司会を担当。シンポジストは7名。インド医師会事務局長ラ

イ医師、韓国医師会渉外担当理事チヨウ医師、台湾の台北医科大学附属病院産業医学教授のチャン医師、タイ・ラチャウィティ病院救急医療担当パ

イロ医師、トルコのNGOキョセクム副代表ユスフ氏に加えて日本医師会常任理事災害担当石井正

三医師と大阪大学大学院人間科学研究科の中村安秀教授だった。

シンポジウムの終わりに、海外のシンポジストから石井常任理事に記念品が贈られた。東日本被災地に日本医師会チームとして延べ5000人以上の医療スタッフを派遣した統括責任者だったことを慰労して。海外の5名のアピールは「アジア全体を網羅する災害時の緊急医療体制の確立」だった。石井常任理事からは日本医師会もNGOであるとの感動的なコメントをいただいた。

「アジア相互扶助緊急救援ネットワーク」構想が私の答えである。中核

「アジア相互扶助緊急救援ネットワーク」構想

は日本・台湾・韓国である。陰陽思想を共にできる国である。地域ごとの代表

を述べたい。東アジアはモンゴル。東南アジアはインドネシア。南アジアはインドとネパール。西

アジアはトルコ。中央アジアはカザフスタン。それぞれに近隣諸国が協力する。

13年4月に「アジアNational NGO会議」を開催予定である。トヨタ財団と三菱UFJ国際財団がスポンサーである。

National NGOと安定な地域ではAMD Aアフガニスタン支部派遣医療チームを、下流ではAMD A本部派遣医療チームを受け入れてくれる。同様にスリランカでの救援活動協力は06年のアルバイ州の台風被災者支援に始まり、09年マニラ洪水被災者支援、昨年

洪水では上流の治安の不安、各国のNational

国際保健医療学会シンポジウムで記念品を贈られる日本医師会の石井常任理事(中央、左端が筆者)。



200が相互扶助にもとづいて災害医療活動を実施することが「アジア相互扶助緊急救援ネットワーク」構想の神髄である。

12年12月4日。フィリピンのミンダナオ島で死者が740名を超え、被災者50万人にのぼる台風被害が発生。AMD A本部は沖繩支部と共に、第一陣として2名の看護師と1名の調整員を派遣中。被災地ではフィリピン国軍と合流して救援活動を実施している。フィリピン軍が安全確保を担当。軍の救援活動協力は06年のアルバイ州の台風被災者支援に始まり、09年マニラ洪水被災者支援、昨年

13年から世界は本格的な金融大恐慌に突入する。経済から政治の時代は沖繩支部と共

に、第一陣として2名の看護師と1名の調整員を派遣中。被災地ではフィリピン国軍と合流して救援活動を実施している。フィリピン軍が安全確保を担当。軍の救援活動協力は06年のアルバイ州の台風被災者支援に始まり、09年マニラ洪水被災者支援、昨年

13年から世界は本格的な金融大恐慌に突入する。経済から政治の時代は沖繩支部と共

に、第一陣として2名の看護師と1名の調整員を派遣中。被災地ではフィリピン国軍と合流して救援活動を実施している。フィリピン軍が安全確保を担当。軍の救援活動協力は06年のアルバイ州の台風被災者支援に始まり、09年マニラ洪水被災者支援、昨年

（AMD Aグループ代表）